

第71回東奥賞 来月1日贈呈式

「短命県を本当に返上したいんだよ、何とかしたい。この素晴らしい郷里が短命県でいいはずがないんだ」。短命県返上のことになると、言葉に自然と熱がこもる。

生まれは長崎県諫早市。21歳で弘前大学医学部に入学して以来、本県で過ごした年数の方が長くなった。学生時代から公衆衛生に関心があり、当時の教授からは旧厚生省に勤めてはどうかと勧められたというが、本県の健康づくりに取り組むと決めていた。一方、「健康な人」に健康づくりを説くことの難しさも知っている。「自分は青森に育ててもらったし、青森が好き。好きじゃないとやれないでしょ」と笑う。

弘前大学医学講座の教授だった2005年、若木町（現弘前市若木地区）の住民を対象に大規模健康調査「若木健康増進プロジェクト」をスタートさせた。「短命県の汚名を返上したいと長年思っていたが、何をやればいいのか分からなかった」。だからこそまずやってみよう、やってみれば答えが出るかもーそんな思っていたと振り返る。

膨大な調査項目を設定。14年間で延べ2万人以上のビッグデータが集まり、多くの健康情報を長期にわたって蓄積した世界に類のない研究となっている。13年には、このデータを活用した研究開発プロジェクトが国の「セクター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」に採択された。ヘルスケアや食品分野などの大手企業も続々参画、短命県返上を目指す動きが全国の注目を集めるきっかけとなった。

高齢者健康調査で参加者に趣旨を説明する中路さん（6月、若木文化センターあそべーる）

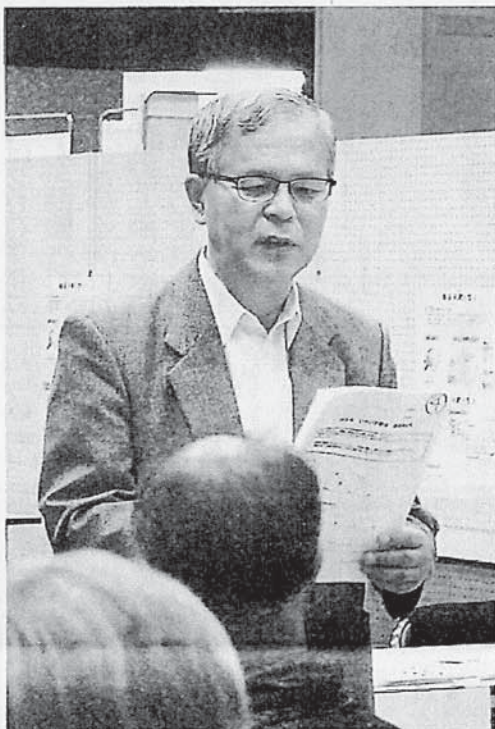


県医師会長 齊藤勝さんより

中路先生は、長年にわたり青森県の短命県返上のためにご尽力されてきました。産官学民挙げた弘前大学における若木健康増進プロジェクトでは、2千項目にわたる健康ビッグデータを解析することにより、認知症、生活習慣病などの早期発見を可能とし、高齢者の健康寿命延伸を目指しております。

青森県医師会では2015年4月に短命県返上の拠点として「健やか力推進センター」を開設。中路先生にセンター長にご就任いただき、2千人を超える「健康リーダー」を育成し、短命県返上に向けて「人づくり」を推進していただいております。

中路先生には今後も中心的な役割を担っていただき、県民のヘルスリテラシー向上のため、産官学民を巻き込んだ県下全域にわたるご活躍を期待します。



短命県返上へ尽力

弘前大学大学院特任教授 中路重之さん

自身の健康対策を聞くべし、「毎日飲まないこと、喫煙しないことくらい」。そして、こう付け加えた。「短命県返上という生きがいをもっていることも大きいんだ」

健康は複数要因から成るとして、健康状態、生活習慣、家族構成など